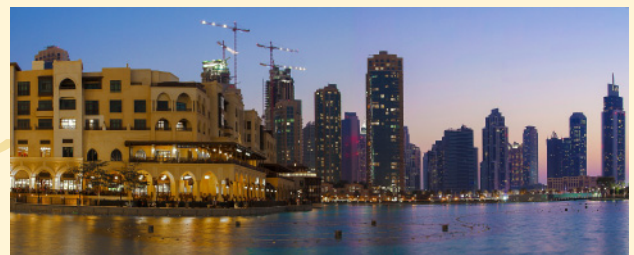




東アジア販路開拓レポート

イスラム経済圏への入り口 3月度ツアー「ドバイ商談会」

海外販路開拓ツアーを3/6(月)～3/9(木)にわたり催行。今回は初のドバイ訪問である。羽田からドバイまでの直行便の所要時間はおよそ12時間。冬季にあたる3月の日中の気温は25～26℃。著しい成長を遂げたアラブの地に初上陸し、海外販路としての可能性を探った。



ジェトロ・ドバイのブリーフィング

3月7日(火)10時より、ジェトロ・ドバイの調査部長・山本和美氏より、ブリーフィング。アラビア半島のペルシャ湾沿岸に位置するドバイは、中東における貿易・商業の最大の中心地となっている。またアフリカ大陸にも近いことから、ドバイは中東(Middle East)と北アフリカ(North Africa)を合わせたMENA(ミーナ地域)市場全体を攻略する上での拠点としても有望な地だ。

ちなみに、MENAに属する国は国際機関や研究機関ごとに領域の定義は様々だが、世界銀行では、湾岸協力会議(GCC)加盟の6カ国〔アラブ首長国連邦、オマーン、カタール、クウェート、サウジアラビア、バーレーン〕と、その他の中東〔イエメン、イスラエル、イラク、イラン、シリア、ヨルダン、ヨルダン川西岸・ガザ地区、レバノン〕、北アフリカ〔エジプト、リビア、チュニジア、アルジェリア、モロッコ、マルタ、ジブチ〕の21カ国・地域としている。

MENA地域は、アラビア語を話すアラブ民族が多く、イスラム教信者が多数を占めている。近年は、GCC6カ国の高い経済成長率とともに、持続的な成長が見込まれる振興地域として注目されている。その理由は、①アジア諸国を抑え、世界トップクラスの人口増加率で、2020年には4億7,000万人超の地域人口となること、②平均年齢は27.9歳と若年層が中心で、力強い消費が期待できること、③2020年の名目GDPの予測は、他の振興地域(インド・中国・アセアン)の5倍以上——などが上げられる。

このMENA地域の中心に位置するドバイの爆発的な経済発展のキッカケは、石油依存型の経済から脱却すべく、まずは世界最大級の貿易港とハブ空港を作ったことだ。そして世界中に投資を呼びかけて、世界最大の超高層ビル・マンションや、高級リゾート地などを次々に建設。2013年には貿易イスラム金融、ハラル

図1ドバイモールのヨックモック(左)・ヤマノテ・アトリエ(右上)・紀伊國屋書店(右下)

